



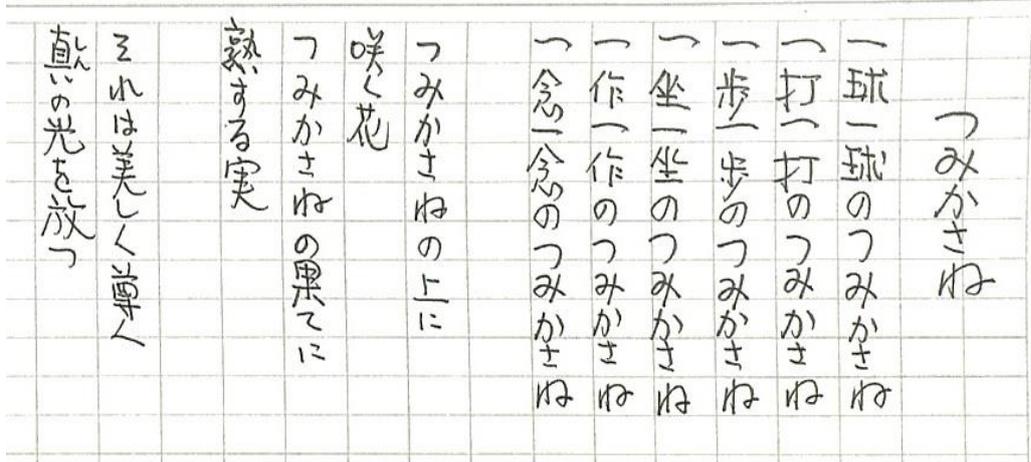
笑う門には 福来たる

(株)日本交通社

発行人 光田秀之

☎089-946-3911

坂村真民記念館(砥部町)



鉄砲伝来

明朗・愛和・喜働

天文十二(一五四三年)、種子島に中国船が漂着しました。その船に乗り合わせ、いたポルトガル人が持っていたのが、火縄銃でした。

領主の種子島時堯は射撃の実演を命じ、その威力に驚嘆して二丁の火縄銃を購入します。そして刀鍛冶の八板金兵衛に複製を命じたのです。生まれて初めて見る火縄銃を分解、研究した金兵衛は、見事複製に成功します。

その後、堺商人の橋屋又三郎が種子島を訪れ、火縄銃の製法を学び、製造販売にこぎ着けるのです。そのため堺は日本有数の鉄砲産地となりました。

それ以来、数多くの戦国大名が堺を訪れて火縄銃を購入し、全国に広がっていききました。ヨーロッパ各国からやってきた宣教師の多くが、日本の軍事力の高さに驚き、母国にその報告をしたという記録も残っています。

当時の世界情勢は、ヨーロッパ各国によって多くの国が植民地化されていた時代です。ところが日本は植民地化をまぬがれます。

日本人の器用さ、勤勉さが、国を守ることにつながったとも言えるでしょう。

◆創意工夫をして業務にあたりましょう

「職場の教養」より

三次もののけミュージアム (広島県三次市)

日本再発見!

江戸時代の妖怪伝説「稲生物怪録(いのうもののけろく)」の舞台である三次市三次町にある博物館。日本屈指の妖怪コレクターであり民俗学者の湯本豪一氏から寄贈された絵巻や掛軸、着物など約5000点のコレクションを展示する。常設展示「日本の妖怪」では、絵画や書籍、日用品などから妖怪が人々の生活に関わってきた様子を紹介。チームラボによる「妖怪遊園地」では、それぞれが自由に描いた妖怪がスクリーンで動き出すという不思議な体験ができる。



保親さんの人生万感

我もまた平穩願う日もあれど
時代の外に身を置きがたし

愁いなき日々を願へど人の世は
悩みの森は抜け出しがたし

楽しまないから疲れる

「面白くない」と決めつけていないか。心が後ろ向きのままだと疲れるだけ。先入観を捨てよう。見方を変えて楽しもう。

